

2024-031

研究課題名	Assessment of Swallowing Ability for Pneumonia（摂食嚥下機能評価法）を用いた早期からの簡便かつ汎用的な摂食嚥下機能評価が患者アウトカムに与える影響に関する検討
実施責任者	所属・職名：リハビリテーション部
	氏名： 天白 陽介
研究の概要	摂食嚥下機能障害を有する患者様に対して適切な食形態、栄養ルートを選択することは、肺炎・窒息よぼうなど生命予後の観点及び、在院期間短縮といった観点からも大変重要です。Assessment of Swallowing Ability for Pneumonia（ASAP）は高齢肺炎患者様及び、脳卒中患者様に対して有用な 8 項目 100 点満点と定量的な評価が可能かつ、医療従事者であれば誰でも簡便に実施できる評価です。ASAP が摂食嚥下機能障害に精通した専門職以外でも精度高く実施できる「汎用的な」評価であれば、専門職が不在、もしくは介入困難な患者においても早期から適切な食事形態で経口摂取開始を可能とし、早期からの食事の開始や、不要な肺炎、窒息の防止につながり、患者様に与える影響は大きいことが予想されます。
対象となる個人情報	・患者一般情報 性別、年齢、既往歴、Body mass index、在院日数、リハビリテーション介入日数 ・栄養評価 GNRI ・摂食嚥下機能評価 言語聴覚士及び看護師によって評価された ASAP ・日常生活動作評価 BI ・ASAP 評価者に関する情報（経験年数） ・肺炎及び抗菌薬使用の有無 ・今後、対象とする疾患毎に疾患重症度をそれぞれの指標を用いて評価いたします。
実施の期間	西暦 2024 年 10 月 1 日より
	西暦 2030 年 10 月 31 日まで
研究対象	当院に入院し、言語聴覚士及び看護師により ASAP が評価可能であった患者様